

# さいたま 来ぶらり通信

Contents

さいたま市の竜の伝説……………1,2 本棚ぶらり テーマ「伝説・伝承」……………3  
さいたま市子ども読書活動推進計画／「第9回さいたま子ども短歌賞」応募作品募集について／臨時休館のお知らせ…4

わがまち

はっけん  
Sai 発 

さいたま市の竜の伝説



2021（令和3）年5月1日、さいたま市は誕生20周年を迎えました。さいたま市のPRキャラクターである「つなが竜ヌウ」は、見沼田んぼに残る竜の伝説がモチーフとされています。

そこで今回は、市内に伝わる竜の伝説をご紹介します。

## さいたま市PRキャラクター「つなが竜ヌウ」

「つなが竜ヌウ」は、見沼田んぼの主の子孫として生まれ育った「見沼（ミヌマ）」から「ヌウ」と名付けられました。「つなが竜」には、さいたま市の魅力を伝え、人々の「つながり」を深める役割を担う意味が込められています。



## 見沼の竜伝説

そんなヌウの起源となった見沼田んぼ。干拓前は、大宮・浦和・川口にまたがる大きな沼でした。見沼周辺には、竜の伝説が多く残っています。

### 見沼の笛

昔、夕暮れになると見沼のほとりのどこからか美しい笛の音が流れてきて、この音に誘われた若い男性が次々と姿を消したことがありました。村人は見沼の主が怒っているに違いないと思い、大きな石碑を建てて供養しました。すると、笛の音は聞こえなくなり、その後は若者が姿を消すことも無くなったといえます。

一方、供養したのではなく都の武士に笛吹き退治を依頼したとの話もあります。武士が笛を吹く美女を切りつけたところ、突然嵐が起きました。あとには一本の笛が残り、武士はその笛を近くの神社に納めたとのこと。

数年後、この神社に笛を見せてほしいという老婆が現れます。老婆が笛をひと吹きすると老婆と笛は姿を消し、その代わりに空に雲が天高く昇っていったといえます。笛を吹いていた美女や老婆は、見沼の竜神の化身であったと伝えられています。

### 国昌寺の門

（国昌寺：緑区大字大崎 2378）

江戸時代中期に建立された、通称「開かずの門」。門の欄間には、左甚五郎作といわれる竜の彫刻があります。

田畑を荒らす見沼の竜を甚五郎に彫ってもらい、釘づけにしたところ、竜は大人しくなりました。しかし、葬式の列が棺をかついでこの門をくぐろうとすると、釘づけにされた竜が棺の中身を食べてしまうため、開かずの門にしたといえます。

## いざわ や そべ えためなが 井澤弥惣兵衛為永と竜

井澤弥惣兵衛為永(以下、為永)は、享保年間に徳川吉宗より命じられ、見沼代用水路を普請するとともに、見沼新田を開発した人物です。為永と竜にまつわる伝説を見ていきましょう。



井澤弥惣兵衛為永の銅像

### 見沼の竜神

見沼干拓事業に取りかかった為永のもとへ、ある晩美しい女が現れます。自分は見沼の竜神で、新しい住処を見つけるまで沼の工事を延期してほしいと言うのです。しかし為永が気にせず翌日以降も工事を続けたところ、災難が生じ、自身も病になってしまいます。為永が伏せているとまたその女が現れ、病気を治すので代わりに自分の願いを聞いて欲しいと毎晩やってくるようになります。女が現れてから為永の病気は良くなりましたが、ある晩、家来が為永の部屋を覗くと、蛇身の女が為永の体を舐めまわしていました。気味が悪くなり、翌日すぐに為永は詰所を万年寺に移したそうです。

### 万年寺の竜神灯

(万年寺：見沼区片柳1-155)

万年寺で為永が寝ていると、竜神が現れ、自分に三町四方の沼を残して欲しいと願いました。夢から覚めた為永は、その夢を叶えたいと思いますが、どうにもならなかったため、万年寺境内に観音菩薩を祀り、神灯を寄進して「竜神灯」とし、竜神の霊を慰めることにしました。以来、毎晩のように竜神灯が照らされるため寺僧が様子を見ると、闇の中から美女が現れ、灯りをともしていたといえます。

## 見沼以外の伝説

ちょうでんじ

### 長伝寺の水飲み竜

(長伝寺：中央区本町東5-13-13)

長伝寺本堂の欄間に、竜と虎の見事な彫り物※がありました。ある晩、住持が欄間を見ると竜がいません。くまなく探すも見つかりませんでした。翌朝にはいつもと同様に竜が欄間にいました。そんなことが続いたため、住持は本尊の後ろに隠れ、竜の様子を見守ることにしました。すると、亥の刻に竜が欄間から抜け出し、外にある小川で水を飲んでるところを目撃しました。実はこのころ雨天続きで、武蔵国一帯では田畑が水につかり作物が腐ってしまっていました。しかし、与野の田んぼだけがこの水害を免れていたのです。それはこの竜が水を飲んでいたおかげだったと、感謝をしたのだといえます。

※昭和43年本堂改築にあたりこの竜は降ろされ、現在は庫裏に保存されています。

こうぬま

### 鴻沼の竜神

干拓前の鴻沼は、現在の中央区下落合から南区鹿手袋にかけて南北に細長い沼でした。当時の鴻沼は、見沼、伝右衛門沼に次ぐ大きさだったといえます。そんな鴻沼にも竜神がいて、見沼との間を黒雲に乗って移動していたといわれています。

様々なさいたま市の竜の伝説、いかがでしたか。見沼や鴻沼など、昔から水と深く関わってきた地域だったからこそ、多くの竜の伝説が残っているのでしょう。ゆかりのある場所をめぐってみるのも面白いかもしれません。

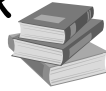
今回紹介した伝説は出典により諸説あります。

## 参 考 資 料

- ・『浦和市史研究 第9号』浦和市総務部行政資料室／編集 1994年
- ・『長伝寺』長伝寺 出版年不明
- ・『埼玉ふるさと散歩 浦和市・与野市(さきたま双書)』青木義脩／著 丹治健蔵／著 さきたま出版会 1992年
- ・『見沼代用水路普請奉行井沢弥惣兵衛為永』見沼土地改良区 2010年
- ・『万年寺-大宮-(さきたま文庫49)』田口勝一／文・写真 さきたま出版会 1996年
- ・『鴻沼のお話』浦和くらしの博物館民家園 出版年不明
- ・さいたま市ホームページ PRキャラクターつながり竜ヌウ <https://www.city.saitama.jp/006/012/001/004/index.html>
- ・『見沼を知ろう!見沼代用水路を探ろう!見沼通船堀へ行こう!』さいたま市立浦和博物館 2002年

# 本棚 ぶらり

テーマ  
伝説・伝承



## 『絵で見て不思議！ 鬼ともののけの文化史』

ささまよしひこ  
笹間良彦／著

遊子館 2005年



みなさんは「鬼」と言えばどんな姿を想像するだろうか。古代中国では死体や死者の靈魂を表す象形文字から鬼という漢字が生まれ、その名残から現代の日本では人が亡くなることを「鬼籍に入る」とも言う。鬼の概念が日本に伝来した6世紀頃には、陰陽五行説から鬼は恐ろしいものと認識され、奈良・平安時代には政権に敵対する者たちを鬼と見なして抑圧することもあった。しかし江戸時代には幕府が絶対的な権力を確立したことで、鬼を敵対勢力の象徴とする見方は減衰していった。今日では鬼が節分やことわざで語られる場面も多い。後半には天狗、河童、人魚や鵜など多数の「もののけ」が登場し、本書全体に収録された約150点の絵図を見ているだけでも楽しめる。

## 『歌になった 「にっぽん昔話・伝説」の謎』

ごうだみちと  
合田道人／著

幻冬舎 2002年



『竹取物語』のかぐや姫が生まれた竹は、どうして光り輝いていたのか。『花咲かじいさん』の犬はなぜ「ぼち」というのか。本書は昔話や伝説、昔話を題材にした童謡などから、多くの人が見過ごしてしまうような謎を拾い上げて提示し、それらの解明に迫る。

昔話や伝説の内容が事実かどうかを確認することは難しい。従って、それらから生まれた謎にも、正しい答えなどはないのかもしれない。しかし、著者の書く私説には「なるほど」と感じさせるものがある。昔話を少し違った視点から眺めることのできる一冊。

## 『ザシキワラシと婆さま夜語り 遠野のむかし話』

ささき きぜん  
佐々木喜善／著

河出書房新社 2020年



柳田国男の『遠野物語』の序文に「この話はすべて遠野の人佐々木鏡石君より聞きたり」とある。

「佐々木鏡石」とは、本書の著者・佐々木喜善のペンネームである。『遠野物語』にもザシキワラシの話は出てくるが、本書によって、奥州にはほかにも多くのザシキワラシの言い伝えがあることに気づかされる。その姿や現れ方、呼び方などもさまざまのようだ。

後半には、大正12年以降に喜善が村の老婆から聞き取った、ザシキワラシ以外の不思議な話がまとめられている。「その大部分は婆様が子供の時、その祖母から聴いたもの」であるという。話を収集した際の様子などを記した前段の「自序」を読むと、口伝とはどのようなものかを感じ取ることができて面白い。

## 『日本の幻獣図譜 大江戸不思議生物出現録』

ゆもと こういち  
湯本 豪一／著

東京美術 2016年



「繰り返しになるが、幻獣とは存在しないにもかかわらず“いる”と信じられた生き物だ」これは本の中の一文です。また、河童や人魚などの幻獣を「妖怪のように異界に消え去るものとは違って、時には捕らえられることさえある不思議な“生き物”」としています。

本書では「地」「水」「空」といった章ごとに、江戸時代にその存在を信じられていたという数々の幻獣が当時の人々の目にも触れていたはずの絵や版本、ミイラなどとともに紹介されています。

仮に自分が江戸の昔に生まれ、説明のつかない奇怪な事象に遭遇したとしたら……。真剣に想像すると、幻獣が身近に感じられるかもしれません。

新しくスタートしました

# さいたま市子ども読書活動推進計画



## 4月23日は「子ども読書の日」

「子どもの読書活動の推進に関する法律」をご存じですか？  
毎年4月23日を「子ども読書の日」とすることや、子どもの読書活動を推進するために、都道府県や市町村は計画を作り公表することを定めた法律です。

本市は平成18年に当初の計画を作り、これまでに2回の改訂を経て、今年4月から第四次計画がスタートしました。



## どんな計画？

自分で本を読む習慣が身に付けられるよう、「読書が好き」な子どもを増やすことを目標にしています。子どもの読書習慣は、乳幼児期から大人が積極的に絵本の読み聞かせを行い、喜びの体験を積み重ねていくことが大切です。家庭・地域・学校・図書館などが連携して、子どもの読書活動を推進する様々な取組を実施します。



## 図書館での取り組みは？

毎月23日を「さいたま市子ども読書の日」とする取組を新たに始めました。各図書館で様々なイベントを開催することで家庭内での読み聞かせや本を交えたコミュニケーションの機会が増えるように普及啓発します。7月～8月には、「さいたま市子ども読書の日創設記念キャンペーン」として各図書館で様々なイベントを開催します。

計画をまとめた冊子は、さいたま市図書館各館でご利用いただけます。また、図書館のホームページからもご覧いただけます。



さいたま市図書館トップページ  
▶子ども読書活動推進計画

## 「第9回さいたま子ども短歌賞」応募作品を募集しています！

- 対象** 小・中学生
- 応募方法** 所定の応募票に自作の短歌及び必要事項を記入し、下記の応募先にお送りください。応募票は、各図書館・各公民館で配布しているほか市ホームページからダウンロードできます。
- 応募期間** 令和3年7月15日(木)から9月3日(金)まで(必着)
- 賞** 優秀賞20首、入選80首  
※入賞作品で作品集を作成します。
- 応募先** さいたま市教育委員会生涯学習振興課
- 問合せ** 〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4  
電話 048-829-1705 FAX 048-829-1989  
E-mail shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp

## 臨時休館のお知らせ

「さいたま市図書館施設リフレッシュ計画」に基づく修繕工事のため、下記の図書館が臨時休館します。ご不便をおかけしますが、安全で快適な図書館としてご利用いただくため、ご理解ご協力をお願いいたします。ただし、新型コロナウイルス感染防止のため工事期間を変更させていただく可能性がございます。あらかじめご了承ください。

### 与野図書館西分館

令和3年8月2日(月)から  
令和4年3月31日(木)まで(予定)

## 編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

## ★★編集後記★★

「来ぶらり通信」第29号では、大門神社・愛宕社の「釘付けの竜」の伝説を紹介しています。ぜひ読んでみてください。

次回発行予定：11月15日(年3回発行)



もっと身近に、  
もっとしあわせに



さいたま来ぶらり通信は、2,000部印刷し、一部あたりの印刷経費は19円です。